

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	オキサジクロメホン
SDS コード	:	S2-05
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町 3 丁目 2 番 12 号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	試験研究以外の用途には使用しない事。人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事。環境中に使用しない事。

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高压ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分に該当しない	
	可燃性固体	分類できない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	分類できない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	分類できない	
	鈍性化爆発物	分類できない	
	健康有害性	急性毒性 (経口)	区分に該当しない
		急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
		急性毒性 (吸入: 気体)	区分に該当しない
急性毒性 (吸入: 蒸気)		区分に該当しない	
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)		区分に該当しない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分 2B	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分に該当しない	
生殖細胞変異原性		分類できない	
発がん性		区分 2	

環境有害性	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (肝臓, 腎臓)
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)	: 警告
危険有害性 (GHS JP)	: 眼刺激 (H320) 発がんのおそれの疑い (H351) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (肝臓、腎臓) (H373)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。(P260) 取扱後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。(P314) 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。(P337+P313)
保管	: 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 化学物質

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
オキサジクロメホン	≥95%	C20H19Cl2NO2	-	8-(7)-1478	153197-14-9

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に診断/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。 多量の水と石鹸で優しく洗うこと。 直ちに医師に診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 直ちに医師に診断/手当てを受けること。

- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断／手当てを受けること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する。  
使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。  
火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。  
消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。  
消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 浄化方法 : 粉塵を発生させないように注意し、できるだけ掃き集めて密閉できる空容器に回収し、安全な場所に移動する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。

- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗いうがいをすること。  
作業所の十分な換気を確保する。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。

- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

### 保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。  
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。

- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。

- 保管温度 : 冷蔵保管: 2～10℃

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

皮膚及び身体の保護具 : 保護服、保護長靴、保護前掛け  
 眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)  
 手の保護具 : 保護手袋  
 呼吸用保護具 : 防塵マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 固体  
 外観 : 固体  
 色 : 白色  
 臭い : 無臭  
 pH : データなし  
 融点 : データなし  
 凝固点 : データなし  
 沸点 : データなし  
 引火点 : データなし  
 自然発火点 : データなし  
 分解温度 : データなし  
 可燃性 : データなし  
 蒸気圧 : データなし  
 相対密度 : データなし  
 密度 : 1.3 g/cm<sup>3</sup> (20°C)  
 相対ガス密度 : データなし  
 溶解度 : データなし  
 n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : データなし  
 爆発限界 (vol %) : データなし  
 動粘性率 : データなし  
 粒子特性 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性 : データなし  
 化学的安定性 : 通常の実験条件では安定である。  
 危険有害反応可能性 : データなし  
 避けるべき条件 : 日光、熱  
 混触危険物質 : データなし  
 危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物、塩素、塩素化合物

## 11. 有害性情報

オキサジクロメホン	
急性毒性(経口)	ラットの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (農薬工業会: 農薬安全性情報 (Access on November 2015)、農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008)) との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性(経皮)	ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008)) との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性(吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。

オキサジクロメホン	
急性毒性(吸入:粉末)	ラットの LC50 値 (4 時間) として、> 5.54 mg/L (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008)) との報告に基づき、区分外とした。なお、被験物質が固体であるため、粉じんの基準値を適用した。
急性毒性(吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質 500 mg を 4 時間適用した結果、1 時間後に極めて軽度の紅斑が 1 例に認められたが 1 日後に回復したとの報告がある (農薬抄録 (2008))。以上より、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質 0.1 mL を適用した結果、適用 1 時間後に結膜に刺激性変化がみられたが 1 日後に回復したとの報告がある (農薬抄録 (2008))。回復性の状況から区分 2B とした。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	モルモットを用いたマキシマイゼーション試験及びビューラー試験の報告があり、マキシマイゼーション試験では軽度の感受性 (陽性率 25%) と報告され GHS 規定の陽性 30% を満たしていない。また、ビューラー試験では、試験群に皮膚反応はみられず、本物質は陰性と報告されている (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。上記の 2 試験は、OECD TG406 相当の GLP 適合試験であることから、区分外と判断した。
生殖細胞変異原性	In vivo では、マウスの骨髄細胞を用いる強制経口投与小核試験で陰性、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。したがって、ガイダンスに従い分類できないとした。
発がん性	本物質をラットに 2 年間、マウスに 1.5 年間、混餌投与した発がん性試験において、ラットで 2,500 ppm、マウスで 800 ppm の高用量群の雄に、肝細胞腺腫/がんの頻度の増加 (ラット)、肝細胞腺腫、及び肝細胞腺腫/がんの頻度の増加 (マウス) がみられた (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。すなわち、本物質投与により、両種ともに雄にのみ肝臓腫瘍の誘発が認められたが、国際機関による分類結果がなされていないことを踏まえ、本項は区分 2 とした。
生殖毒性	ラットを用いた経口経路 (混餌) による 2 世代繁殖毒性試験において、親動物には F0 の 500 ppm 以上の雄、及び 2,500 ppm の雌、F1 の 500 ppm 以上の雌雄の群に、肝臓への影響 (重量増加、小葉中心性肝細胞肥大) が認められたが、生殖能への有害影響はみられていない。また、F1、F2 児動物には離乳時の剖検で、500 ppm 以上の雌雄に肝臓重量の増加がみられた以外に影響は示されなかった (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。一方、妊娠ラット、又は妊娠ウサギを用いた催奇形性試験では、ラットに妊娠 6~15 日、ウサギに妊娠 6~19 日に最大 1,000 mg/kg/day を強制経口投与した結果、いずれの動物種も 1,000 mg/kg/day で母動物に体重増加抑制が示されたが、胎児には被験物質投与による毒性所見は認められていない (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。以上の試験結果から、少なくとも親の性機能及び生殖能、胎児毒性、催奇形性、生後の成長発達には毒性学的に懸念すべき所見は見出せないが、ラット 2 世代繁殖毒性試験で母動物に肝臓影響が生じる用量で、新生児に肝臓重量の増加が 2 世代にわたりみられた事実は重大な生殖発生毒性を示す所見に該当しないものの、母親を介して新生児に一般毒性影響が発現する可能性を示唆する所見とも考えられる。すなわち、区分外と分類するにはデータ不足と判断し、本項は分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質に関するヒトのデータはない。実験動物では、ラット、マウスの経口投与、ラットの経皮投与、ラットの吸入ばく露試験のデータがある (農薬抄録 (2008)、食品安全委員会農薬評価書 (2008)) が、いずれも限度量 (又は達成可能な最高濃度) まで投与しても症状及び剖検所見に異常が認められていないことから、区分外とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットを用いた混餌投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験において区分 2 の範囲である 500 ppm 投与群 (雄: 18.34 mg/kg/day、雌: 22.48 mg/kg/day) 以上で雌雄に肝臓への影響 (び慢性肝細胞肥大等)、2,500 ppm 投与群 (雄: 94.4 mg/kg/day、雌: 116.7 mg/kg/day) でさらにび慢性肝細胞脂肪化等がみられ、また、雄に腎臓への影響 (慢性腎症等) がみられ、マウスを用いた混餌投与による 18 か月間発がん性試験において区分 2 の範囲である 800 ppm 投与群 (雄: 86.08 mg/kg/day、雌: 77.40 mg/kg/day) で雌雄に肝臓への影響 (小葉中心性肝細胞肥大、星細胞褐色色素沈着等) がみられている (農薬抄録 (2008)、食品衛生研究 Vol.53 No.12 (2003)、食品安全委員会農薬評価書 (2008))。以上のように肝臓、腎臓に対して影響がみられ、いずれも区分 2 の範囲でみられた。したがって、区分 2 (肝臓、腎臓) とした。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

オキサジクロメホン	
水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 非該当  
正式品名 (IMDG) : 非該当  
容器等級(IMDG) : 非該当  
輸送危険物分類 (IMDG) : 非該当

#### 航空輸送(IATA)

- 国連番号 (IATA) : 非該当  
正式品名 (IATA) : 非該当  
容器等級 (IATA) : 非該当  
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

#### 海洋汚染物質

- : 非該当

### 国内規制

- 海上規制情報 : 非該当  
航空規制情報 : 非該当

#### 特別な輸送上の注意

- : 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

- 労働安全衛生法 : 非該当  
毒物及び劇物取締法 : 非該当  
消防法 : 非該当  
外国為替及び外国貿易法 : 輸出貿易管理令別表第1の16の項  
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法) : 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)  
3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジン-4-オン(別名オキサジクロメホン)(管理番号:172)(100%)

## 16. その他の情報

- 参考文献 : 17423 の化学商品(化学工業日報社)  
国際化学物質安全性カード(ICSC)  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)  
ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)

## その他の情報

- : この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させてください。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。